発行所
京都府綴喜郡田辺町大字田辺小字辻四〇
田辺町役場
電話田辺271——274番
編集人
京都府田辺町役場総務課
印刷所
吉山印刷所

年頭談話

『農業の振興對策』

田辺町長　北川　楢太郎

皆様新年はおめでとう御座居ます。月日のたつのは早いもので、本町も併合後第六回目の新年を迎えました。回顧すれば、二十八年にはお蔭の大水災を蒙りましたが、昨年一昨年と二ケ年続いて天災的に洪水に平穏無事のお陰で、災害復旧も無事進捗致しまして、どこに平和、よいお正月を迎え得ました事はまいといわねばなりません。

さて昨二十一年は、国的に地方自治体の財政危機がさけばれ、本府も長期に亘る財政再建計画が立てられ、本町また別掲の如く、田辺町の財政自主再建計画を建て、二十二年度はその実行地に入る訳であります。

しかしながら、また一面において発展途上にある本町としてはいろいろなされねばならぬ幾多の事業があり、町民各位からも種々の要望をきいています。例えば中学校の改修や舗装等々枚挙にいとまありませんが、これらの事業と、財政再建との間をどうマッチしてゆくかが問題点で、この意味から三十二年もまた多事多難の年といわねばなりません。

さて、三十二年度に新しくクローズ・アップしてくる一つの重大な問題があります。それは

新農業振興建設
総合対策の樹立

の若柳危険校舎の改築、主要道路こと、いう問題であります。皆さんもすでに御承知のとおり、わが国の農業は一種の転換期にきていると思われます。今ひろく世界の農林水産事情を見れば、全般的な過剰生産と価額低落の傾向を示しつつあり、加うるに麦の統制の緩和乃至撤廃はいよいよこの傾向を助長し、農家経済を危機に追い込むこととなる。従って、わが国の農林政策の基本的な目標を「農林業の生産性をたかめ、農家経済の安定を図る」ことに置かねばなりません。と同時に、農家の生活水準の向上をめざし、その生活環境を明るくするための方途として、生活改善の問題をとり上げねばなりません。

ここにおいて、政府は

（イ）新農山漁村建設総合対策要綱を三十一年四月六日閣議決定し、

（ロ）新農山漁村総合対策に関する件を、三十一年四月二十日に農林大臣通達を発表し

（ハ）農山漁村振興特別助成事業取扱要領を、三十一年十月三十日農林省振興局長より通達せられたのであります。

以上によりますと、好むと好まざるとにかかわらず、政府は全国の農山漁村に対し、今後五ケ年間をめざし、全部これを実施せしむる固い決意を持って居る様であります。

そして、それによりますと、第一年度を「振興基本計画の摸索期間」とし、その翌年度と、翌々年度との二ケ年を「これが実施期間」とし定めています。

わが田辺町は三十年度（遅くとも三十三年度）これが「計画地域」指定される公算大であります。

そうなることになれば、農業に直接間接に関係ある各種団体はもとより、婦人会、青年団及び四H クラブ等をはじめ、広く一般町民各位の御協力を願わねばなりません。以上一言述べて、年頭の挨拶といたします。

空から見た
（興）（戸）（住）（宅）

空から見る広い田の一角にひらけた興戸住宅地には今九十戸余りの公営住宅が建ち並んでいる。ここにも新らしい"むら"が誕生して、まさにのびゆく町の姿ではある。

昭和二十六年以来、たゆみなく進められて来た住宅建設は府営、町営をあわせ実に二百戸になんなんとし、町営だけでその家賃が年間さっと二百五十万円に上っている。

そして今年も、二十五戸の住宅が多々羅、柚の木、四村ケ丘の各団地に、急ピッチで建設が進められている。

（大阪写真測量所撮影）

年度　昭和三十一年度
▽府直営工事予定△

災害年度	災害ケ所	位置	工事の種類	備考
二八	浜畷寺線	興戸	工事延長二四米主抱練積石垣九四・〇平方米	
〃	魚田八丁線	橋本	橋長一二、巾員一米、橋台コンクリート、橋脚根木造	
〃	高田	大住	工事延長一七米、巾員四・五米主留練積石垣三八・〇五平方米	
二九	水戸天王線	天王	工事延長一七米、巾員四・五米主留練積石垣三八・〇五平方米	
淀大谷線	校方水口線	田辺	道路改良工事	工事費二割田辺町負担
〃	淀長尾線	松井	〃	〃
〃	〃	橋梁改良工事	工事費一割田辺町負担	〃

計　三ケ所　この工事費　五一九、六〇〇円

▽町直営災害復旧工事△

民生委員決る

民生児童委員の任期満了により十四名の推せん委員から推せんされ、各学区一月一日、厚生大臣および京都府知事から委嘱された新しい民生委員は、次の方々であります。（順不同）

協議会長、田辺地区　村田勝兵衛
〃　田辺地区　橋本孫次郎
〃　河村八三郎
〃　西村　元吉
〃　森村　寿
〃　村上清太郎
〃　西川　亦三
〃　太田　ミヨ
副会長、大住地区　東辻ハツエ
〃　大住地区　古林　文次
〃　大住地区　西村甚之丞
〃　草内地区　岡本　春三
〃　草内地区　小畠　協
〃　草内地区　藤本　勇
〃　草内地区　井上　軍治
副会長、草内地区　上村金西郎
〃　草内地区　谷村安次郎
〃　内藤キヌエ
〃　岡井　ミヨ
副会長、三山木地区　高橋　重美
〃　三山木地区　徳田　フミ
〃　三山木地区　岡本伊次郎
〃　普賢寺地区　村井　博
〃　普賢寺地区　森　茂
〃　普賢寺地区　林　ハルノ
〃　普賢寺地区　南　正夫
〃　中川　三郎
〃　中島　当子
〃　奥西　佐蔵
〃　田中　加代

赤痢発生、みんなで防疫

皆さんも、すでに御承知のとおり只今、大住地区で発生しています。町に保健所では年末年始を返上して、これが防疫対策に全力を挙げて、目に見えない赤痢菌とたたかっています。町民一丸となって防疫に全力を注ぎましょう。

そのために、次のことがらを今すぐ実行して下さい。

▽家内で下痢をしている人ができたら、すぐ医者に診てもらい特効薬を飲ませましょう。

▽食事前や外出先から帰ったときは、忘れず「手洗」と「ウガイ」をいたしましょう。

▽部落の中を流れている川で、食器類等は絶対洗わないよう、又下痢をしている人の洗濯物や、汚物は川へ流してはいけません。

玉水橋完成!!

総工費一億余万円、三年の月日を経て全長四六二米、田辺町と井手町にまたがる玉水橋が、鉄筋の橋けたのライトグリーンもあざやかに昨年十一月完成いたしました。

（写真は玉水橋）

町営住宅入居申込受付
―1月5日から―

構造	建設場所	戸数	家賃予定額	入居敷金予定額
▼簡易木造、瓦葺、八・五坪	▼大字田辺、柚の木	五戸	九五〇円	一月家賃の一倍
▼（六、四・五畳、押入、便所）	▼大字田辺、柚の木	一	一〇〇円	一月家賃の一倍
▼第一種木造、瓦葺、一〇・五坪（六、四・五畳、押入、炊事場、便所）	▼大字田辺、四ケ丘	三	一、六五〇円	二月家賃の二倍
▼（六、四・五畳、炊事場、便所）	▼大字大住、岡村	七	一、八〇〇円	中旬

▽申込受付期間＝一月五日～一月十日（五日間）

◎日曜日を除く、毎日午前九時―午后四時。

▽申込場所（用紙交付）＝田辺町役場総務課

▽入居者の資格＝

▽現に住宅に困っている者。

▽一定の職業に従事し独立の生計を営む者で、現に町内に居住する者及び町内に職場を有する者。

▽次の要件の収入がある者。

第一種＝入居者の毎月の収入の合計から扶養親族一人につき千円を控除した額が家賃の六倍以上三万二千円以下であること。

第二種＝同じく扶養親族一人につき千円を控除した額が一万六千円以下であること。

▽家賃の支払能力がある者。

▽現に同居し、又は同居しようとする親族があること。

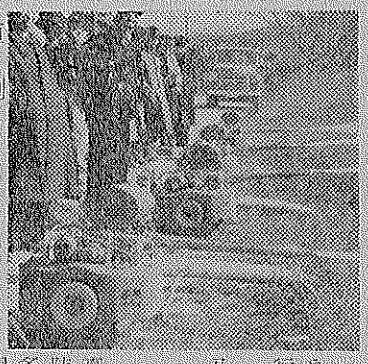
＝その他＝

▽入居申込は一世帯一戸に限る。

▽申込の際、必ず"戸の場所"の住宅にするか、お申し出願います。

◎その他くわしいことは役場にたずねて下さい。

恒例
消防団出初式



例年のとおり今年も消防団の出初式が行われますが今年は一月七日午前八時から普賢寺小学校々庭で。

なお、このほど写真（上）のような消防ポンプ五台を購入、多々羅、田中、南木閑、落の谷消防団へ配備されました。

人事異動

昭和32年　1月1日

町長	北川楢太郎	
助役	岡本雅博	
助役	小西茂	
収入役	吉村正夫	
教育長	桐山博	
町会議長	今村茂	
町会議長	北川一	
〃	中村太郎	
〃	橋本松治	
〃	古川修	
〃	保田吉	
〃	北川重郎	
〃	西村一郎	
〃	藤本太郎	
〃	井川三郎	
〃	出島保	
〃	北川徳	
〃	小田太	
〃	中村三郎	
〃	橋本信	
〃	古川利	
〃	岩田雄	
〃	熊川治	
〃	熊村松	
〃	徳山修	
〃	喜多郎	
〃	磯吉重	
〃	徳田一	
〃	三郎	
〃	橋本太郎	
〃	中川三郎	
〃	北川一郎	
〃	今西義	
〃	桐村奈良	
〃	村朝	
〃	吉川信	
〃	小川利	
〃	岡本岩	
〃	北川	
教育委員長	田辺町上美一	
教育委員	村口豊	
〃	堀田太	
〃	村田兼	
〃	国林徳	
〃	藤永五	
〃	池伊之次	
〃	堤兵次郎	
〃	藤三治	
〃	奥義次郎	
〃	小茂雄	
〃	香稔次	
〃	村幹介	
〃	里幸夫	
〃	西太造	
〃	沢未郎	
〃	中誠三	
〃	小源一	
〃	北和吾	
〃	西道雄	
〃	藤菊夫	
〃	井義松	
〃	出奈良一	
〃	北朝蔵	
〃	保信二	
〃	古利雄	
〃	橋岩治	
〃	中熊松	
〃	北熊太郎	
〃	今徳修	
〃	桐喜吉	
〃	村磯重	
〃	吉徳一	
〃	小田太郎	
〃	岡三郎	
〃	北川三郎	

田辺町財政再建計画

本町の財政自主再建計画は、郡議会の協議を経て昨年十一月一日の臨時町議会で採決され、同日以降の同意を得て成立、いよいよ実行移すことになりました。それでは引続きこの公表をどういう方法で解消しようとするのか、それを申し上げる前に、町当所の現状は一体どうなのか、という点を先づ眺めてみたいと思います。

実質赤字は二百二十七萬円

さきに財政自主再建計画書を公表しましたが、また二万、支出では人物件費の占める割合が多いとか、台所に見合わない仕事のやり過ぎ等々、赤字は主に災害・災害復旧工事・原因としていることを指摘しましたが、二十九年度決算における赤字額は全くがそれでありました。

ところが三十年度決算では、災害復旧工事による赤字が二百五十三万四千円、このうち、いわゆるほんとの赤字が既報の百二十五万円ちょっと同じ二百二十七万七千円、これは繰越前となり、合計以来六、二七、二六、二五年の四ケ年間にわたり寄り続けられてきた財政赤字が生じる結果となりました。

赤字の原因というものは、相当根拠があるのであって、例えば収入面で税収の滞納が多いが、国から交付金の不足が生じたこと、

そうした原因をあらゆる角度からこの赤字の原因は、本紙前号で町長が言明した通りであるように、消防自動車ポンプ二台、消防小型動力ポンプ四台の購入財源を起債で見込んだことなどの起債のワクが少なかったために、不許可になったこと、

ちょっと、今頃と浮んだだけでも、しなければならない仕事は山積しています。言葉をよくしたい、学校の建増しも、老朽危険校舎の改築も、公営住宅建設も、消防ポンプも、といったぐあいに、次々と必要な事業が山積しております。

これらを、限られた財源でいかに有効かつ適切に使って行くかと「仕事をする」ということです。それを「仕事をすぐに仕事をやってゆこうとする場合、ほんとに仕事につぎ込めるお金はどれほどあるのだろうか。三十年度決算（見込）からこれをのそいてみましょう。（この場合、臨時的なものを除きます）

◎収入では

町税　三三、五七八千円
地方交付税　八、八五六千円
使用料及び手数料　三、六四六千円
財産収入その他　二八三千円
国・府支出金　一〇、八千円

◎支出では

人件費　二三、一七六千円
物件費　一三、八〇四千円
その他の消費的経費　六、七五二千円
公債費　五、三四一千円
計　四九、〇七三千円

右の結果、差引百二十九万八千円が、さきほど述べましたいろんな仕事はあてることのできるお金ということになります。かりに学校を二教室建増しするとすると、それすらたちまちお金の生み出しに困る心細い台所だといえます。したがってこれ以上の仕事をしたいと思うなら、国の補助金をつけてもらうか、借金をするか、あるいは税金を今以上に多く出してもらうか、それとも特定経費をおさえて、お金を生み出す方法以外に手がないわけですが、ともあれ、どれもこれも容易でない事であります。

しかも多額な赤字を背負った上に、しなければならない仕事を山ほどかかえて、今後既の浅い台所の補充をどうしようか。「赤字だからといって町税徴収上において、優遇政策はいけない」という意見も最もなことです。前号でこのことについて町長は「仲びんかための尺どりも止むを得ない」と述べ、町民各位の共鳴を求めましたところであります。

人件費はワク内で節減

税率は上げず

三十三年度には黒字

◎財政の再建期間

三十一年度から向う三ケ年間に赤字を解消し、後期にあたる三十三年度には五十四万円余の黒字にする。

◎支出の節約

▽…三十二年三月末日（又は遅くとも七月末）までに厚生委員会を一本にまとめること、役場出張所についても全面的に縮少又は廃止する。

▽…このために年度の職員の過員は、現でしかれている役場の機構を検討し、その結果生ずべき過員、すなわち五名を減ぜし、教育委員会、農業委員会事務局の相互間、又は町長事務部局の職員間において、中のある人事交流、配置かえ、兼務等により補う。

▽…人件費の節約については、職員の給与総額は一定のワクに置き、再建期間中は、このワクをこえない範囲に、おさえ、昇給その他特別の事情があるときは、職員の新陳代謝あるいは欠員の不補充により生ずる余りのワク内で行う。

▽…物件費の節減については、三十一年度初予算予算額を基礎として、三十二年度から物件費全体で一割を節減する。この場合主として一般事務に使う物件費を節減する対照とする。

▽…そのほか外郭団体に対する助長的な補助金、あるいは法令とは規制額の範囲内でしか支出しない。

▽…毎年多額の町費を使って建設されている町営住宅建設は三十二年度からは住宅家賃などの収入と見合い以内で建設してゆく、したがって過去四ケ年に毎年平均二、二二九千円をこれらに繰込まれていたものが、一銭もいらなくなる。

以上は支出に対する節約の方針でありますが一方収入については逆にふやす方法を考えねばなりません。

収入の確保

▽…赤字解消の手段として町税を増税するというが考えられます。しかし町民各位にこれ以上に負担をかけることは忍びず、そこで新税をおこしたり、税率を引き上げることもしないで、今のままで徴収率の向上を努めて増収を図ることとしたい考えである。

▽…次に建設後五年を経た町営住宅を適当の価格で、これを分譲する。

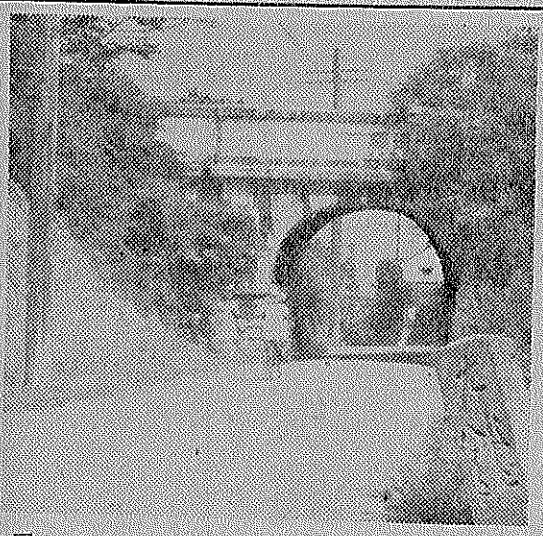
▽…このほかの収入については大体今のまま、すなわちとし、国に頼っている地方交付税、補助金あるいはする危険性もありますので少目に見込むと共に、起債については、できる限り自主財源をあつてあてゝゆき、将来の公債費のほう張をおさえたいのであるが、町営住宅のような一般町民の負担とならず、家賃で返済してゆけるものとか、水道事業でその使用料で賄ってゆけるような、いわゆる企業債はある程度の起債は縛けてゆく考えである。

こういったところが収入確保の基本方針でありますが、特にここで町長各位にお願いすることは滞納の問題であります。昨年十一月末日現在で調べました本町の滞納額は、実に九百一十三万円余に達しています。これたけあれば赤字分黒字となり黒字のお金で、すばらしい仕事ができて、みなさんにとれほど満足をもたらし明るい町にすることが出来るか一ほんとに、じれったい感じがしてなりません。

いろいろ赤字解消の計画をならべたましたが、結局は今、申し上げたことが最も肝心かなめでないでしょうか。

収入を見てから支出

以上は赤字解消のあらましでありましたが、要ととれからそれを如何に切り盛りしてゆくか、如何に立派な計画でも実行がともなわなかったら"絵に画いた餅"同然であります。「収入を見てから支出をする」この信条を堅くまもって貫く方針であります。町民各位の一層の御協力と御協場をお願いする次第であります。



"新トンネル"改築

明治四十年頃"薪のトンネル"橋（薪瓦橋トンネル）が、このほど近代的な明るい鉄筋コンクリート造橋に改築されることになり目下、田辺主本営所の手で工事が進められています。

設計によりますと、現在の巾員四米が六、五米に拡張されることになり、交通のはけしいところだけにみんなから喜ばれることでしょう。

なお工費は二百二十七万円かかり二月中旬、竣功の予定です。

おなじく今度改築されるこのトンネルは、明治時代の土木技術の粋を集め、斯界の最高峰をゆく国宝的？存在であったのが、時代の波に消えてしまうことは残念でもあります。

写真は改築される"薪トンネル"

歳入の部

（単位千円）

区分	昭和30年度	%	昭和31年度	%	昭和32年度	%	昭和33年度	%
1、町税	33,578	42.7	37,082	52.3	37,082	55.4	37,082	64.6
2、地方交付税	8,856	11.3	7,555	10.7	6,912	10.3	5,625	9.8
3、使用料及び手数料	182	0.2	133	0.2	1,423	2.2	1,093	1.9
4、財産収入	564	0.7	101	0.1				
5、①②国・府支出金負担金及び補助金	3,646	4.6	4,589	6.5	4,599	6.9	4,599	8.0
③その他の補助金	3,304	4.2	4,239	6.0	4,239	6.3	4,239	7.4
6、①②③使用料及び手数料	342	0.4	350	0.5	360	0.6	360	0.6
6、④⑤⑥⑧国府支出金	18,970	24.2	12,533	17.8	10,960	16.3	8,360	15.5
6、⑦⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㊿㊿